

## 変色茎の発生を抑制するいぐさの乾燥温度

収穫したいぐさの乾燥温度を55 に設定すると、慣行の70～60 の変温乾燥に比べて、いぐさの変色茎(ヤケ)が20%減少し、畳表の色調が向上する。

農業研究センターい業研究所加工部(担当者:田中伸昭)

## 研究のねらい

生いぐさの乾燥温度は乾燥機の普及とともに、一日の収穫作業スケジュールを考慮し70 が基準とされ、いぐさ乾燥の常識とされてきた。しかし、品質が重視される今日においては、より品質の高い色調の揃ったものが求められている。

このため、いぐさの乾燥温度による品質への影響を明らかにし、いぐさ乾燥法の再構築を図る。

## 研究の成果

- 1 泥染め乾燥後のいぐさ「岡山3号」に発生する変色茎は、乾燥温度を慣行の70 60 の変温から55 にすると10%程度減少する。
- 2 無染土で乾燥したいぐさ「岡山3号」に発生する変色茎は、乾燥温度を70 60 の変温から55 にすると20%減少する。
- 3 変色茎が少ない55 で乾燥したいぐさを加工した場合、無染土畳表の色調は明度が低く、また、色相は緑に偏る。

以上のように、55 の中温乾燥は変色茎の減少と色調面の改善が期待できる。

## 普及上の留意点

- 1 中温乾燥の場合、乾燥むらが発生すると乾燥がうまく進まないため、詰め込みは均等に行うこと。
- 2 乾燥途中で乾燥むらを確認したら、未乾燥束を取り除き風の道を作る。
- 3 乾燥時間がやや長くなることから、騒音対策を含めたいぐさ収穫作業体系の見直しが必要となる。

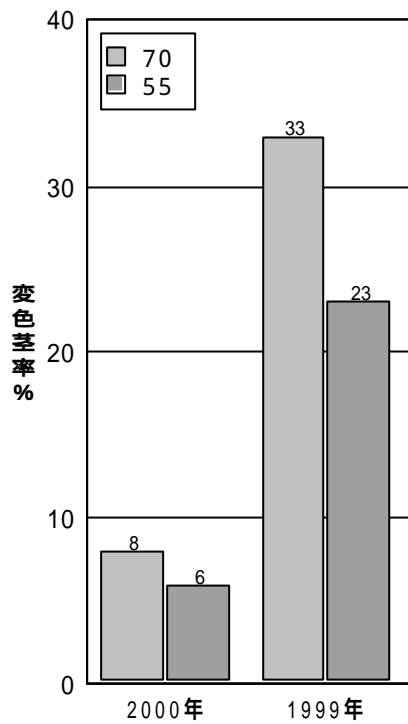


図1 乾燥温度と変色茎率 (染土付き)

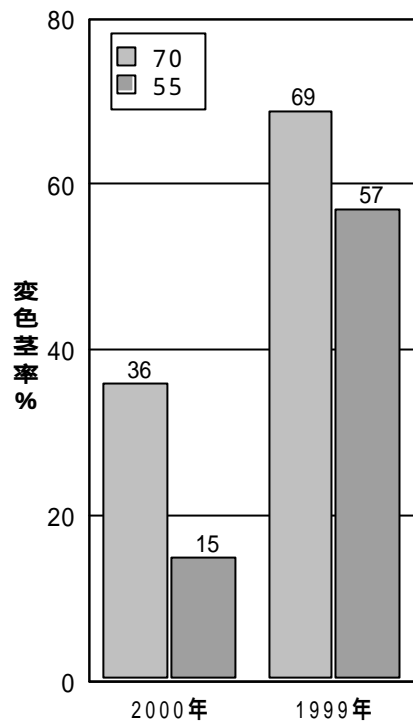


図2 乾燥温度と変色茎率 (無染土いぐさ)

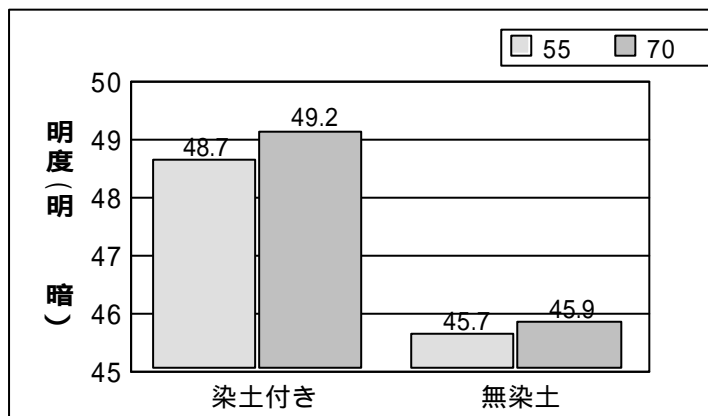


図3 泥染めの有無と畳表の明度

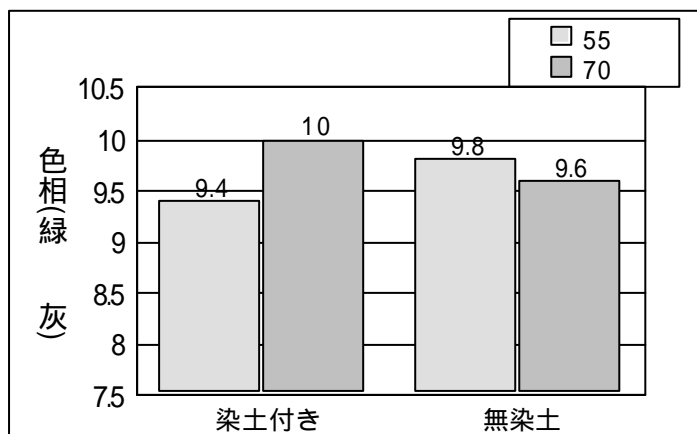


図4 乾燥温度と無染土畳表の色調 (左55、右70)



図5 畳表の色相 (緑) の強さ